

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 一人ひとりの個性の伸長を図る教育活動により、将来社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される学校をめざす。
1. 生徒一人ひとりが、自分の持つ能力を十分に発揮できるよう、学習指導、生徒指導、キャリア教育を推進する。
  2. 守るべき規範と果たすべき役割を自覚し、社会に貢献する志を持つ生徒を育成する。
  3. 中学校との連携、保護者や地域との連携を推進し、地域での存在価値と信頼感を高めていく。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

- (1) 「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付ける。
  - ア 組織的な授業改善の推進を図る。
  - イ 「主体的、対話的で深い学び」の実現をめざし、生徒の主体的な授業参加をめざす。
  - ウ ICT機器の更なる活用の促進をめざす。
    - ※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成 29 年度 75.1%)を上昇させ、2020 年度には 80%以上にする。
    - ※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成 29 年度 66・3%)を、2020 年度には 70%以上にする。
- (2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。
  - ア 習熟度別少人数展開授業の充実を図る。
  - イ 学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を計画的に実施する。

## 2 キャリア教育の推進

- (1) キャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる。
  - ア 外部の基礎学力診断テストの効果的な活用をめざし、進路を切り拓く生徒の育成に取り組む。
  - イ 生徒の進路選択の可能性を広げる指導体制の充実を図る。
  - ウ 進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域に適切な進路情報を提供する。
    - ※ 生徒向け学校教育自己診断における進路指導満足度(平成 29 年度 81.3%)を 80 パーセント以上維持する。
    - ※ 進学決定率(平成 29 年度 93.8%)を上昇させ、2020 年度には 96 パーセントをめざす。
    - ※ 保護者向け学校教育自己診断における進路指導満足度(平成 29 年度 86.2%→平成 32 年度 85%以上を維持)及び進路情報満足度(平成 29 年度 83.6%→2020 年度 85%以上)をあげる。
    - ※ 学校紹介就職内定率(平成 29 年度 100%)を継続させる。

## 3 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実と安全・安心な学校生活の推進

- (1) すべての教育活動を通じて、規範意識の醸成、自らを律し他人を思いやる心を育てる。
  - ア 時間遵守、身だしなみ等、規範意識の醸成を図る。
  - イ 相互に笑顔であいさつができる習慣を身につける。
  - ウ 交通マナーの向上を図る。
    - ※ 欠席・遅刻について前年度比減少を図る。
- (2) 生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育を実践する。
  - ア 学校行事や生徒会活動を通じて生徒の主体的な参加を推進するとともに、集団の中で活動できる能力を育成する。
  - イ 部活動の活性化に向けた取組みの推進。
  - ウ 地域の行事等に積極的に協力するなど、地域との連携を図り、社会に貢献することの大切さを理解させる。
  - エ 高大連携校との活用促進をめざす。
- (3) 安全で安心な学校生活の推進
  - ア 人権教育・国際理解教育の取組みを通じて、生命や人権を大切にすることを育てる。
  - イ 学校保健・安全指導と教育相談体制の充実。

## 4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上

- (1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。
  - ア 中学校訪問、学校説明会等を計画的・組織的に実施し、本校教育内容の周知を図る。
  - イ HPの充実
  - ウ 適切な情報発信に努め、保護者等からの理解を得るとともに、協力体制をさらに充実させる。
  - エ PTA 活動を推進し、学校行事への保護者及び地域からの参加の促進を図る。
- (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。
  - ア 学校運営体制の確立
  - イ 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「わかる授業」「参加する授業」の実現に向け、学校教育自己診断の授業満足度は（生徒 66.3%→69.1%、保護者 81.9%→86.4%）と順調に上昇した。一方、生徒の授業アンケートにおける各授業への満足度（興味関心・知識技能）の平均値は79.5%であり、ついに目標の77%を超えた。引き続き、生徒の実態に即した組織的な授業改善に向けての取組みの充実が必要である。</li> </ul> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習環境（52.4%→49.4%）で下降したものの、学校行事（71.0%→71.7%）や教育相談（親身に対応 66.2%→69.1%、気軽に相談 56.9%→63.6%）・生活規律（71.7%→73.6%）・人権教育（69.4%→73.5%）・安心安全（71.3%→79.4%）で満足度が上昇している。学年進行（2年生で中だるみで下降する項目はある）でも上昇している。遅刻や身だしなみ等保護者の理解を得ながらの丁寧な生徒指導が浸透しつつある。</li> <li>また教育相談・人権教育においても、組織的な改善が進んでいる。安全教育とともに更なる充実をめざしたい。</li> <li>系統的キャリア教育及び生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導のさらなる充実の結果、進路指導関係満足度は、高いレベルを維持して（生徒 81.3%→80.1%、保護者 進路情報 83.6%→86.8%、指導 86.2%→88.2%）おり安定してきた。今年度から基礎学力診断テスト導入し、次のステップへ進む時期に達した。</li> </ul> <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の肯定的評価平均は、高い順に保護者（83.1%→85.9%）・教員（81.1%→74.9%）・生徒（68.3%→71.1%）である。上昇度で見ると昨年度（保護者+13.4、生徒+5.9、教員+23.0）の反動が出ている。学校教育自己診断（教員）の（授業改善 84.6%→64.1%、学校行事 79.5%→69.2%、校内研修 74.4%→59.0%）など組織的な改善の部分で、教員の意識改革が課題である。</li> </ul>	<p>【第1回：7月6日（金）開催】</p> <p>&lt;平成30年度学校経営計画について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校になじめない生徒に関して、SC活用などの対応は評価できる。（教育相談で）もっと工夫できるところはないか検討して欲しい。</li> <li>ネットトラブル防止の取り組みは、入学時から保護者も含めて継続して欲しい。</li> <li>行事等でのリーダー育成は、良いことだと思う。ただ、生徒間の温度差をできるだけ減らして、もっと生徒全員が取り組める行事をめざしてほしい。</li> <li>地域に出ていくことは重要。地域連携→社会貢献→キャリア教育とつながり、信頼関係も生まれるので、機会を大事にしてほしい。</li> <li>学校教育自己診断のアンケートなどで、少数であっても否定的な意見があるが、それらを掘り起こし探っていくことが大切である。</li> </ul> <p>【第2回：11月16日（金）開催 授業見学も実施】</p> <p>&lt;平成30年度学校経営計画進捗状況について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チャイムと同時に授業をスタートすることができていて落ち着いていた。10年ほど前とだいぶ変わり、学習に向かえる環境になっている。</li> <li>少人数授業では、生徒の発言を逐一拾ったり、全員に配慮されるような授業になっていてよかった。</li> <li>ICTさえ使っていればよいというのではなく、使い方が重要であると思う。勉強が苦手な人でも分かりやすく、興味を持てるような工夫して欲しい。</li> <li>生徒指導に関しても、少しずつ地道に成果が出ているので続けてほしい。行事においてもルール化する姿勢を見せることは、必要で適切だろう。</li> <li>学習環境の話があったが、エアコンに関しては大阪府内どこも同じ状況で、学校側としても努力しているが難しい面もあるということ、生徒にきちんと説明した方がよい。</li> </ul> <p>【第3回：2月15日（金）開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校では、授業の組立てや生徒との接し方という部分での研究授業やユニバーサルデザインについての研修を実施している。高校ではどうか。</li> <li>学校の立地条件や交通量などで、自転車の安全が気になる。合羽着用などと併せて、条件付きで許可証を出すなど考えて欲しい。</li> <li>経営計画の達成状況では○が多いが、◎の数値目標を決めるか、成果が上がっているものは、◎でよいのではないか。</li> <li>「ようこそ先輩」などキャリア教育で実施している行事は、評価できる。</li> <li>スマートフォンや保護者対応など、学校（組織）としてこれまで通りの対応だと「時代遅れ」になるものはないか。年齢構成もあるが、若い世代に受け継いでいける組織力が必要だ。</li> <li>説明会や行事への中学生参加が増えているのは、良い傾向だ。登下校だけのイメージだと「化粧が濃い」だが、実際見学や行事に行くとイメージが良くなる。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価 達成状況（達成されたもの ◎・○、達成されなかったもの △）

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業改善の取組み。 ア 組織的な授業改善の推進を図る。  イ 「主体的、対話的で深い学び」の実現をめざし、生徒の主体的な授業参加をめざす。  ウ ICT機器の更なる活用の促進をめざす。  (2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。 ア 習熟度別少人数展開授業の充実を図る。  イ 個に応じた学習指導の実践に努める。</p>	<p>(1) ア・授業初めと終わりには目標の提示及び振り返りを全授業において行う。 ・指導方針の統一、学習環境を確保することにより、授業の集中力を高め、授業規律の確立を図る。 ・ユニバーサルデザイン(UD)を意識した教育環境・授業づくりを学校全体で構築する。 アイ・「授業改善チーム」を設置。パッケージ研修等を活用し、授業モデルの作成、研究授業や観点別学習評価について、校内研修を実施する。 ・学びを深める授業の指導案作成、公開授業等を実施し、授業改善を図る。  イウ・ICTを活用した授業づくりを組織的に学校全体で推進する。 ・特にタブレット型端末の活用頻度を上げる。  (2) ア・教科別に、少人数展開授業について基礎学力の定着及び学力向上の観点から総括し、より効果的な授業を行う。 ・少人数授業の効果検証方法の構築をめざす。  イ・学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を各学年、教科、教務部、進路指導部を中心に計画的に実施する。 ・各種資格取得のための検定試験に向けた講習を積極的に実施し、講習参加者及び検定受検者の増加を図る。</p>	<p>(1) ア・授業観察時の「授業目標」「振り返り」の提示100% ・授業アンケートにおける興味関心、知識技能満足度77%以上(H29:75.1%) ・生徒向け学校教育自己診断における授業規律の肯定率68%以上(H29:66.3%)  イ・授業アンケートでの1回目と2回目での改善率を上げる。  ウ・授業改善チームでのアンケートによる学習指導方法の工夫・改善(UD)を考慮した授業、ICTの活用、主体的で深い学びに対する肯定率を上げる。  (2) アイ・補習・講習参加者が前年度より上回る。(H29:442名) ・各種検定〈漢字・数学・英語・ワープロ〉取得のための講習参加者を前年度より上回る。(H29 講習参加延べ人数961名、受検者数134名)</p>	<p>(1) ア・授業観察時の「授業目標」「振り返り」の提示70%(△) ・授業アンケートにおける興味関心、知識技能満足度については、多くの教員が振り返りシートで改善ポイントとしており本年度79.5%に到達した。(○) ・チャイムと同時に授業開始など指導方針の統一が定着しつつある。年々上昇する傾向にあり、生徒向け学校教育自己診断における授業規律の肯定率は、69.1%。(○) イ・振り返りシートの効果と考えられ、昨年より高いレベルながら3.13から3.16と上昇した。(○)  ウ・授業改善チーム21名を中心にパッケージ研修を活用して、組織的な授業改善を意識してもらった。ICTの活用、主体的で深い学びに対する肯定率では、一定の数値を得た。ICTの活用ではいかに興味関心につなげるかが、次年度以降の課題となった。(○)  (2) アイ・各学年とも一定の補習・講習参加者増加啓発を進めている。特に1年生は、早めに取り組んでおり、継続が課題である。延べ702名(◎) ・各種検定〈漢字・数学・英語・ワープロ〉取得のための講習参加者を前年度より上回る。講習参加延べ人数990名(○)、受検者数119名(△)</p>
<p>2 キャリア教育の推進</p>	<p>(1) 進路指導部を中心にキャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる。 ア 外部の基礎学力診断テストの効果的な活用をめざし、進路を切り拓く生徒の育成に取り組む。 イ 生徒の進路選択の可能性を広げる指導体制の充実を図る。  ウ 進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域に適切な進路情報を提供する。</p>	<p>(1) ア・外部の基礎学力診断テストを活用し、生徒の個々の学力の伸長を客観的に把握する。 ・講習・模試等を計画的に立案、実施する。  イ・就職学習会を3年生で実施する。 ・教員はじめ、外部指導者等様々な面接官による模擬面接を個人または集団の形式で実施することで実践力を身に付けさせる。 ・事前指導をしっかりと行っただうえで応募前職場見学を実施し、生徒の希望と受験事業所とのミスマッチを防ぐ。  ウ・進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域本校の進路指導の取組みを紹介するとともに適切な進路情報を提供する。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育満足度80%を維持する。(H29:81.3%) ・外部模試の受験者数を前年度より上回る。(H29:延べ93名) ・進学決定率を上昇させ、前年度を上回る。(H29:93.8%) 理由のない進路未決定者18%以下。(H29:16.2%)〈1月末現在〉 イ・学校紹介就職希望者の就職内定率100%を維持する。  ウ・進路だよりの年間5回以上の発行 ・保護者向け学校教育自己診断における「進路についての必要な情報をよく知らせてくれる」に対する肯定的回答が前年度(H29:83.6%)を上回る。</p>	<p>(1) ア・外部の基礎学力診断テストを導入し、全学年個々の学力伸長把握に着手し、いかに活用するかが、今後の課題である。生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育満足度80.1%。(○) ・1年生は、例年より増加したが、2年生が伸びず77名だった。(△) ・2年生後半から系統的な進路指導と担任及び進路との相談回数増などで理由のない進路未決定者は、14.4%。(○) イ・ハローワークとの連携も取り入れ、100%を維持。(◎)  ウ・進路だよりは、現在7回発行。(○) ・進路資金や奨学金などの保護者向け説明会の開催を増やしたりして、安定した高い数値86.8%が得られた。(○)</p>

## 府立門真西高等学校

<p>3 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実と安全・安心な学校生活の推進</p>	<p>(1) すべての教育活動を通じて、規範意識の醸成、自らを律し他人を思いやる心を育てる ア 時間遵守、身だしなみ等、規範意識の醸成を図る。 イ 挨拶ができる習慣を身に付ける。 ウ 交通マナーの向上。</p> <p>(2) 生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育の実践。 ア 学校行事や生徒会活動を通じて生徒の主體的な参加を推進。 イ 部活動の活性化に向けた取組みの推進。 ウ 地域との連携を図り、社会に貢献することの大切さを理解させる。 エ 高大連携校との活用促進。</p> <p>(3) 安全で安心な学校生活の推進 ア 人権教育・国際理解教育の取組みを通じて、生命や人権を大切にすることを育てる。 イ 保健・安全指導と教育相談体制の充実。</p>	<p>(1) ア・学校全体で取り組み、保護者と連携した指導をおこなう。特に遅刻の常習者への指導を強化する。 イ・日々の学校生活の中で教員からの挨拶を通して、挨拶する習慣を身に付ける。 ウ・生徒指導部中心に年間通して外部機関等を活用して自転車乗車マナーの向上を図る。</p> <p>(2) ア・生徒指導部、西高祭委員会を中心に、体育祭、文化祭、修学旅行等の学校行事の見直しを図る。 イ・部活動の継続を支援するため、入部機会の拡充を図る。 ・安全・安心に部活動ができるよう環境整備に努める。 ・ノークラブデー（部活動休養日）を徹底し、メリハリのある部活動をめざす。 ・門真西高カップ（バスケットボール・ラグビー）の継続により、中学校との交流機会をさらに広げ、部活動の活性化を図る。 ウ・部活動等による地域貢献をめざす。 ・学校全体で校外の清掃活動「ピカピカ隊」のさらなる活性化を図る。 エ・高大連携校との活用の充実を図る。</p> <p>(3) ア・総合的な学習の時間等を計画的に活用し、いじめの防止、人権尊重の教育、国際理解教育を推進するとともに心のアンケートを実施し適切に対応する。 ・ネットリテラシーなど新たな人権教育の取組みを進める。 イ・教育相談委員会、中退防止連絡会を中心に、SC、関係機関との連携を推進し、相談活動を充実させる。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を確立し、「高校生活サポートカード」「個別的教育支援計画」の適切な活用を図る。 ・教職員の救急講習会全員参加を継続する。 ・防災教育の充実を図る。 ・保健部を中心に、生徒に「自分の健康（命）は自分で守る」という意識の醸成を図る。</p>	<p>(1) ア・欠席・遅刻の前年度比減。 イ・学校運営協議会での意見、外部（来校者）評価。 ウ・自転車乗車マナーが向上したと感じている生徒の割合50%以上。(H29:48.7%)</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度が前年度(H29:71.0%)を上回ったか。 イ・部活動加入の機会拡充の維持。(H29:4月・10月) ・熱中症やケガ等部活動による事故の未然防止ができたか。 ・ノークラブデー（部活動休養日）の徹底ができたか。 ・門真西高カップ（2種目）の継続と中学校の部活動との交流機会の拡充ができたか。 ウ・各部活動の近隣中学校との合同練習の機会を増やせたか。 ・清掃活動の広がり（場所、内容）ができたか。 エ・連携校との新たな企画が実行できたか。</p> <p>(3) ア・心のアンケートの実施と実態把握及び適切な対応ができたか。 ・ネットリテラシーについての啓発の継続がおこなえたか。 イ・生徒向け学校教育自己診断における「教育相談」に対する肯定的な回答が前年度(H29:「親身に対応」66.2%、「気軽に相談」56.9%)を上回ったか。 ・各種連携および「高校生活サポートカード」の活用により個々の生徒に対して「個別的教育支援計画」の作成及び適切な支援ができたか。 ・教職員の救急講習会参加100%を維持する。 ・防災教育の新たな取組みができたか。 ・生徒向け学校教育自己診断における災害時の行動の把握が昨年度(H29:74.1%)を上回ったか。 ・生徒向け学校教育自己診断における生徒の健康・安全に対する意識(H29:71.3%)</p>	<p>(1) ア・欠席前年度比11%減(◎)遅刻16%減(◎) イ・「挨拶する生徒が増えた」(○) ウ・今年度は新たに生徒向け学校教育自己診断の質問項目に加え、大幅に上昇した。次年度以降の検証が必要である。自転車乗車マナー向上肯定率74.7%(○)</p> <p>(2) ア・体育祭ルール化等で、丁寧な周知等もあり現状維持。生徒向け学校教育自己診断における学校行事満足度71.7%(○) イ・部活動加入の機会拡充維持11月。(○) ・6月救急講習会開催し、部活動による事故の未然防止ができた。(○) ・ノークラブデーの徹底(○) ・門真西高カップは、男女バスケットボール9月実施、サッカーとラグビーは3月実施で3種目。(◎) ウ・女子バスケットボールをはじめ、文化部も含め11部が近隣中学校との合同練習等の交流を行った。(○) ・ピカピカ隊6回実施。(○) エ・3月「さくら祭り」に高大連携校を招待。(○)</p> <p>(3) ア・心のアンケートでは、個別に丁寧な聞き取りを行い、教育相談につなげた。(○) ・ネットリテラシーについての研修を外部講師を招き、全学年5月に実施した(○) イ・生徒向け学校教育自己診断における「教育相談」に対する肯定的な回答「親身に対応」69.1%(○)「気軽に相談」63.6%(○) ・「個別的教育支援計画」作成(○) ・教職員の救急講習会参加100%。(○) ・第2回避難訓練の際、門真消防署と連携し、指導助言をいただいた。(○) ・生徒向け学校教育自己診断における災害時の行動の把握78.0%。(○) ・全国学校歯科保健大会において、本校の歯科保健の取組みを発表した。生徒向け学校教育自己診断における生徒の健康・安全に対する意識79.4%。(◎)</p>
<p>4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上</p>	<p>(1) 広報活動を推進する体制の強化及び学校教育活動の活性化。 ア 中学校訪問、学校説明会等の組織的な実施。 イ HPの充実。 ウ 効果的で適切な情報発信の推進。 エ PTA活動の推進、学校行事への保護者、地域住民の参加促進。</p> <p>(2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。 ア 学校運営体制の確立。 イ「学び続ける」教職員の組織的・継続的な育成。</p>	<p>(1) ア・広報委員会を中心に学校全体で、中学校訪問、学校見学会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 ・中学校への出前授業及び学校説明会の実施要請を行う。 イ・タイムリーなHPの更新に努め、保護者及び中学生に門真西高校への関心度を高める。 イウ・学年・分掌・部活動等での活動状況を定期的かつ適切に情報発信を行い、保護者等の理解を得るとともに、協力体制をさらに充実させる。 エ・三者（生徒・保護者・教員）交流委員会を活性化し、学校行事への保護者、地域からの参加を促進する。</p> <p>(2) ア・コア・ミーティング（校長・教頭・事務長・首席）及び運営委員会が、学校運営の中心となるよう確実な定着をめざす。 ・教職員間での連絡・周知事項等のICT化を進め、会議及び校務の効率化を図る。 イ・日常的なOJTの推進に加え、教職経験年数の少ない教員等を対象にフレッシュミーティングの実施をはじめ校内研修を計画的、組織的に実施する。</p>	<p>(1) ア・全教員が中学校訪問、学校見学会及び説明会に参画したか。 ・参加要請のある学校説明会（中学主催、教育産業主催）にはすべて参加する。（参加総数 H29:12） ・中学校訪問実施数を昨年度より上回る。(H29:90校) イウ・2週間に1度、HPの更新の継続。 ・保護者向け学校教育自己診断「学校情報の提供の努力をしている」に対する肯定的回答が前年度(H29:77.8%)を上回ったか。 エ・PTAの役員、保護者や参加者の声。</p> <p>(2) ア・学校全体を見据え、学校運営について企画・検討・調整ができたか。 ・各学年・教科・分掌の教職員の聞き取り。 イ・外部研修等を積極的に活用し、首席、指導教諭等につながる人材を育成できたか。 ・フレッシュミーティングを8回実施。 ・職員研修を計画的に実施できたか。(人権・教育相談)</p>	<p>(1) ア・全教員参画は、できていない。(△)次年度は、土曜日で登校日を設け、午後から学校説明会を行う予定である。 ・参加要請のある学校説明会にはすべて参加した。12回(○) ・中学校訪問実施数は、93校(○) イウ・HP更新は、平均12日に一度。(○)次年度はメルマガ配信が課題。 ・保護者向け学校教育自己診断「学校情報提供の努力」肯定的回答77.3%(△)</p> <p>エ・ゆかた祭りで開催された三者（生徒・保護者・教員）交流会議では、カップ着用など自転車マナーについて話し合わせ、意識が高まった。(○)</p> <p>(2) ア・コアミーティング週2回実施。運営委員会で将来構想を話し合った。(○) ・各学年・教科・分掌の教職員の聞き取りを実施した。(○) イ・リーダー養成研修・カリキュラムマネジメント研修を活用し、ミドルリーダーの育成ができた。(○) ・フレッシュミーティング8回実施(○) ・ネットリテラシーに関する研修を5月、綱紀保持に関する研修を12月に実施し、SCによる教育相談に関する研修を2月に実施。(◎)</p>